

群 教 セ	H01 - 01
	平 29. 265 集
	幼児教育

自分の思いを言葉で伝えたり、友達の話を聞いたりしながら遊びを楽しむ幼児の育成

—ごっこ遊びにおける幼児同士をつなぐ援助を通して—

特別研修員 田村 智子

I 研究テーマ設定の理由

平成 29 年 3 月に告示された新幼稚園教育要領における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一つに「言葉による伝え合い」が挙げられ、具体的な姿として「（前略）経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる」と示された。このことは、社会性や道徳性を育む上で重要であり、人間関係の基盤となる。また、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりすることは、他者と協力していくために不可欠である。

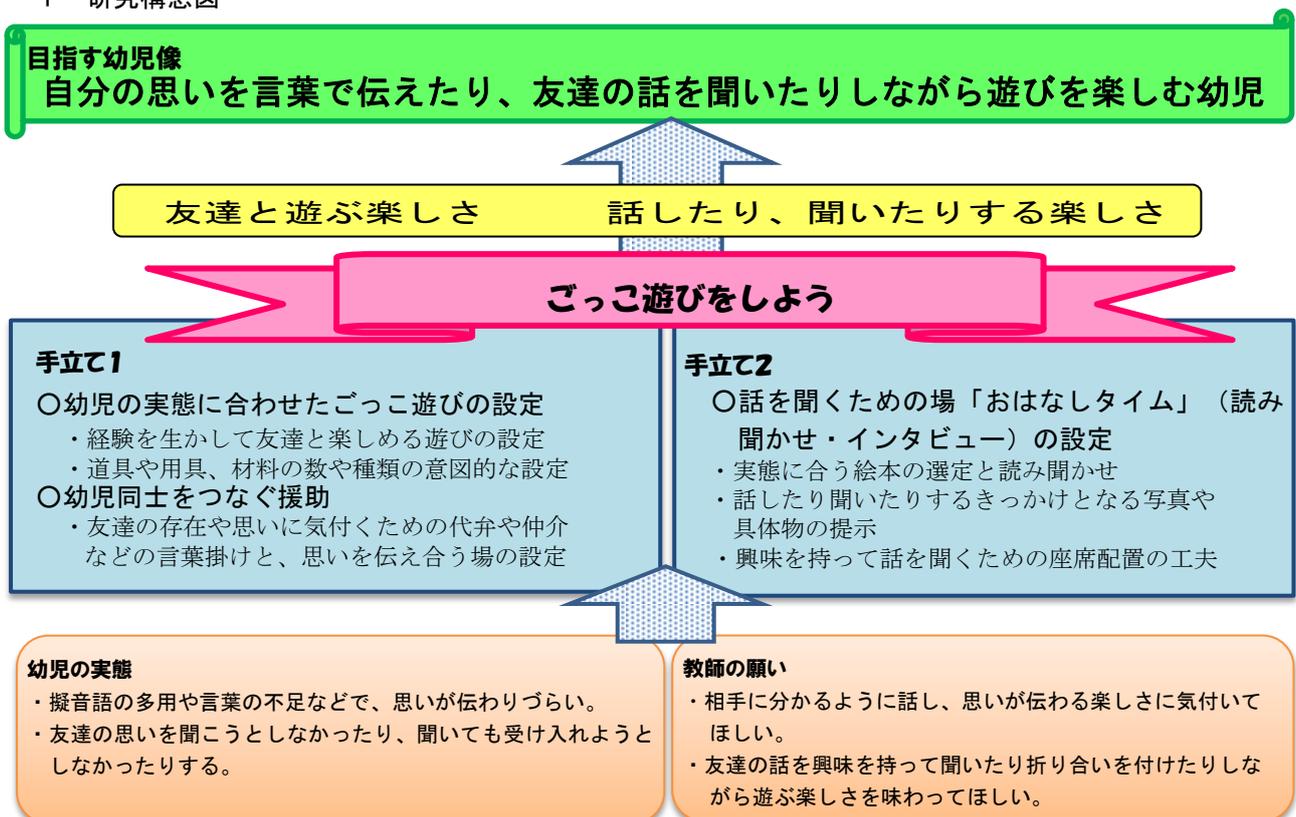
所属園の幼児は、擬音語の多用や言葉の不足などで相手に思いが十分に伝わらないことが多い。また、友達の思いを聞こうとしなかったり、聞いても受け入れようとしなかったりする姿も見られる。

現行の幼稚園教育要領において、「ごっこ遊び」は、社会性や道徳性、言語能力を高めるとされている。「ごっこ遊び」には、役になり切って遊ぶことだけでなく、材料や用具等を集めて遊びに必要な物を作る過程や、イメージした遊びを行うために、個々に考えたことを友達に伝えたり、友達の話を聞いたり、互いに折り合いを付けたりする過程も含まれる。つまり、思いを伝え合うことで、遊びを楽しむことができる。

そこで、幼児の実態に合わせたごっこ遊びを設定し、自分の思いを相手に分かるように伝える必要性を知らせたり、相手の思いに気付くことができるように援助したりするとともに、友達の話を聞こうとするようになるための意図的な場の設定と工夫をすることによって、自分の思いを言葉で伝えたり、友達の話を聞いたりしながら遊びを楽しむことができるようになると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 保育改善に向けた手立て

幼児の実態に合わせたごっこ遊びの設定と幼児同士をつなぐ援助を行うことで、思いが伝わる楽しさに気付いたり、友達の話を興味を持って聞いたり折り合いを付けたりしながら遊ぶ楽しさを味わう幼児になると考え、次のような手立てを講じた。

手立て1 ○幼児の実態に合わせたごっこ遊びの設定

- ・これまでの経験を生かして友達と楽しめる遊びの設定
- ・道具や用具、材料の数や種類の意図的な設定

○幼児同士をつなぐ援助

- ・友達の存在や思いに気付くための代弁や仲介などの言葉掛けと思いを伝え合う場の設定

手立て2 ○話を聞くための場「おはなしタイム」（読み聞かせ・インタビュー）の設定

- ・幼児の実態に合う絵本の選定（読み聞かせ）
- ・話したり聞いたりするきっかけとなる写真や具体物の提示（インタビュー）
- ・興味を持って話を聞くための座席配置の工夫（読み聞かせ・インタビュー）

手立て1は、これまでの経験を生かせる遊びを設定するとともに、遊びに必要な道具や材料の数や種類を意図的に少なくし、必要性を感じて教師に要求したり、友達に教えてもらったりすることができるようにする。さらに「○○君はこう思うんだって」「○○君はどう思う？」などと幼児の思いを代弁したり、仲介したりして、友達の存在や思いに気付くことができるようにするものである。

手立て2では、読み聞かせやインタビューなど学級全体で話を聞くための場を設定し、写真や作った物を提示して話のきっかけを作ったり、座席の配置を工夫したりすることで、友達の話を興味を持って聞いたり、自分の思いを言葉で伝えたりできるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- これまでの経験を生かせるようなごっこ遊びを設定したことで、幼児は「こんなふうには遊べるんだ」と友達のしている遊びに興味を持ったり、「一緒にやろう」と友達を誘うきっかけとなったりした。また、道具や用具、材料の数や種類を意図的に少なくしたことで、「剣を作りたいからペットボトルを一つ下さい」と作りたい物や材料、必要な数などを、教師に言葉で伝えるようになったり、「これはどこにあったの?」「材料の所だよ」と教え合ったりする姿も見られ、友達と関わるようになった。
- 友達の思いに気付けるように、互いの思いを伝える場を設定し、幼児の言葉を代弁したり、仲介したりして幼児同士の関わりをつなぐ援助をしたことで、自分なりの言葉で友達に思いを伝えるようになった。また、友達のしていることや得意なこと、良いところなどを遊びの中で個別に伝えたり、学級全体に伝えたりしたことで、「折り紙は○○ちゃんが得意だから教えてもらおう」「○○君たちが、□□を作ってたよ」など、友達を意識することにつながった。
- 実態に合わせた絵本を選定して読み聞かせたことは、「話を聞きたい」という幼児の興味や関心を引き出すことや「こんな遊びをしたい」という共通のイメージを持つことにつながった。
- 読み聞かせの時は教師との対面形、インタビューの時は円形にするなど、場面に応じて座席の配置を工夫することで、話を聞く態度が身に付いた。また、活動の様子の写真や作った物を提示したことで、友達の話を聞きたい、知りたいと思うようになり、遊びの中や話し合う場面においても、「どう思う?」と友達に思いを尋ねるようになった。

2 課題

- 互いの思いが伝わらない場面では、すぐに教師が仲介をするのではなく、思いを伝え合う場や時間を十分に保障し、自分たちで解決できるような言葉掛けを工夫する必要がある。
- 用具や道具、材料の配置を変えたり追加したりするなどして、遊びが発展し継続するように環境を再構成する必要がある。

実践例

1 活動名 「探険ごっこをしよう」（5歳児・2学期）

2 本活動について

本活動は、これまで行ってきた猛獣狩りゲームの動物探しや船・武器作り、宝探しなどの遊びの経験を生かしたり、絵本『エルマーのぼうけん』の読み聞かせにより、友達と共通のイメージを持ったりして遊ぶことができる。その中で自分の思いを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりしながら必要な物を作ったり道具や用具を設定したりすることが考えられる。また、伝えることや伝わること、聞くこと、聞いてもらうことの喜びを味わいながら遊びを楽しむことができるようになると期待される。

以上のような考えから、本活動では以下のような指導計画を構想し、実践した。

(1) 研究に関わる5歳児の教育計画

期	VI		VII		VIII			IX		X		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
発達の過程	・年長児としての自覚を持つ時期 ・友達との関わりを楽しむ時期				・友達と一緒に遊びや生活を進めていく時期 ・友達とお互いの考えを出し合いながら自分たちで遊びを進めていく時期				・共通の目的に向かって友達と力を出し合いながら遊びや生活を進める時期			
テーマと関わる幼児の姿	・自分の思いを伝えようとするが、言葉でうまく伝えられなかったり、自分の思いを強く主張したりして、トラブルになる。 ・思いの違いや相手の気持ちを受け入れられないことがある。				・経験したことを、自分から話す。 ・友達と協力して準備をしたり話し合ったりするが、自分の気持ちに折り合いを付けられないことがある。 ・遊びのイメージを共有したり、遊びのルールを話し合ったりしながら遊ぶ。 ・いろいろな活動の中で、相談したり、役割分担をしたりしながら遊ぶ。				・共通の目的に向かい、友達と相談したり、協力したりしながら遊ぶ。 ・難しいことやうまくいかないことなど、友達同士で教え合う。			
研究に関わる活動	お店屋さんごっこ				探険ごっこ				劇ごっこ			

(2) 事前の活動→本時の活動→事後の活動

	ねらい	伸ばしたい資質・能力	幼児に経験させたい内容
事前	・探険ごっこに興味を持ち、必要な物を作って遊ぶようになる。	・相手に分かるように伝える力	・船作りや猛獣狩りゲームをしたり、探険や冒険がイメージできるような絵本を見たりして「探険地図」や「探険ごっこ」に興味を持つ。 ・遊びに必要な物を作る。 ・友達のしていることに興味を持ち、まねたり教えてもらったりする。
本時	・自分の思いを分かるように伝えたり、友達の話を聞いたりしながら遊ぶようになる。	・友達の話を聞こうとする力	・「探険ごっこ」のイメージや、やりたいことを友達に分かるように伝えたり、友達の話を聞いたりしながら、必要な物を一緒に作ったり、遊び方、道具や用具の設定場所を考えたりする。 ・友達の考えの良いところや得意なところに気付く。 ・互いの思いが違っても、話し合って自分の気持ちに折り合いを付ける。 ・年中児に分かるように作り方や遊び方を伝えたり、一緒に遊んだりする。
事後	・思いを伝え合う楽しさを味わうようになる。	・折り合いを付ける力	・友達と思いを伝え合ったり、折り合いを付けたりしながら、新たな道具や遊び方を考える。

3 本時及び具体化した手立てについて

「探険ごっこ」のイメージを持ち、自分の思いを友達に分かるように伝えたり、友達の話を聞いたりしながら遊んでほしいと考える。

手立て1

○幼児の実態に合わせたごっこ遊びの設定

- ・これまで行ってきた武器作りや宝探しなどの遊びが生かせる探険ごっこを設定し、探険がイメージできるように、『エルマーのぼうけん』の本や宝探しの道具を製作場所のそばに置いておく。
- ・自分から教師に要求したり、友達に教えてもらったりできるように、遊びに必要な道具を作るための材料の種類や数を意図的に少なくして設定する。

○幼児同士をつなぐ援助

- ・「○○君は、こう思うんだって」「○○君はどう思う？」など、思いを代弁したり、問い掛けをしたりすることにより、友達の思いに気付き、互いに思いを伝えたり、聞いたりできるようにする。

手立て2

〇話を聞くための場「おはなしタイム」（インタビュー・読み聞かせ）の設定

- ・遊びを振り返ったり、楽しかったことを友達に伝えたりできるように、インタビューする場を設定する。
- ・友達の話に興味を持って聞いたり質問をしたりできるように、作った物を提示する。
- ・座席を円形にして互いの顔を見ながら話をしたり聞いたりできるようにする。

4 保育の実際 活動名「探険ごっこをしよう」

(1) 事前の活動

探険をイメージできるように、『エルマーのぼうけん』の読み聞かせを継続的に行うと、A児、B児、C児、D児、E児、F児、G児、H児が「ジャングルみたいになりたい」「紅葉みたいにする」「実を付けよう」と言い、使う材料を友達と相談したり、教師に必要な物を要求したりしながら木を作り始めた。

(2) 本時の活動

【ねらい】 自分の思いを分かるように伝えたり、友達の話を開いたりしながら遊ぶようになる。

<p><事例1> 幼児の姿 —自分の思いを伝えられたC児—</p> <p>○B児が「続きをしよう」と木を遊戯室に運ぶと、A児、C児も参加し、木に顔を描いていた。次第に気持ちが高揚し、ミラーテープを付けたり、文字を書いたりし始め、それぞれが勝手気ままに行っていた。</p> <p>教師：「この木をどんなふうにしたかったの？お話を聞かせて」 B児：「うーん…。どうするんだっけ？壊してやり直す？」</p> <p>A児：「違うよ。エルマーの動物島の木にするんだよ。この上から茶色の紙を貼ればいいんだよ」</p> <p>○C児は、教師をちらっと見るが無言。しばらくA児とB児が、思いついたことを言い合うが、その間、C児は黙っていた。</p> <p>A児：「ねえ、C君は何も言っていないよ。C君はどう思うの？」 教師：「そうだね。C君の意見も聞きたいね」 B児：「C君、どう思う？」 C児：「…あの子、このままにして探険ごっこがしたいな」 教師：「C君は、このままがいいんだって」 A児：「そっか。みんなで作ったからね」 B児：「そうだね。このままにして面白い木にしよう」 ○C児は、少し恥ずかしそうにうつむいていたが、笑顔だった。</p>  <p>図1 思いを伝え合う場面</p>	<p>教師の援助 (◎環境の構成 ◇幼児同士をつなぐ援助 [] 教師の見取り)</p> <p>◎製作材料は遊戯室、木は保育室に置いておく。</p> <p>友達と一緒に描いたり作ったりすることが楽しく、イメージが共有されていないのだろう。</p> <p>◇3人の考えが共通になるように、思いを伝え合う機会を作り、どうしたいのかを問い掛ける(図1)。</p> <p>C児は、何か言いたいことがあって教師を見たのだろう。代弁してほしいのかもしれない。</p> <p>◇C児に、すぐに問い掛けるのではなく、自分から話せるように、しばらく様子を見守る。</p> <p>A児は、黙っていたC児に気付き、C児の思いを聞いてみたくなったのだろう。</p> <p>◇A児がC児の思いを聞こうとしたことを認め、教師もC児に問い掛ける。</p> <p>C児は、伝えられたことと、伝えたことによって友達が楽しそうにしてくれたことが、嬉しかったのだろう。</p>
<p><事例2> 幼児の姿 —友達の話聞き、折り合いを付けられたD児とE児—</p> <p>○D児が、木やトンネル、動物ハードルなどを自分なりに考え設定していた。</p> <p>E児：「僕も交せて。ここにハードルを置くね」 D児：「ちょっと待って。僕はこっちに置きたいんだよ」</p> <p>E児：「じゃあ、三角みたいにしよう」 D児：「違う。そうじゃない。やめてよ」 E児：「じゃあ、順番。さっき、D君が置いたから、今度は僕の番」 D児：「ちょっと待って。勝手にやらないで」</p> <p>E児：「じゃあ、ここに行き止まりを作るっていうのは、どう？」 D児：「そのやり方がいいね。あ、いいこと考えた。この木をゴールにしよう」</p> <p>○D児は、動物ハードルのそばに木を運び入れる。 E児：「それいいね。面白そう」 ○E児とのやり方に納得したD児は教師にガッツポーズをした。 教師：「二人でたくさん話したから、いいアイデアが出たね」</p>  <p>図2 思いを受け入れた場面</p>	<p>教師の援助 (◎環境の構成 ◇幼児同士をつなぐ援助 [] 教師の見取り)</p> <p>◎トンネルや滝、ぴよんぴよん岩を設定する。宝箱などの道具は、友達と場を設定できるように製作材料のそばに置く。</p> <p>互いに相手のやりたいことを聞いていないため、トラブルになったのだろう(図2)。二人の実態から、すぐに仲介せず思いを十分に伝えさせた方が相手分かるような伝え方、聞く必要性に気付くだろう。</p> <p>◇トラブルの原因は分かっているので見守る。</p> <p>E児は、D児の考えを聞こうと思ったのだろう。D児は、E児に尋ねられたことで、相手の思いを聞き、折り合いを付けられたのだろう。そのため、納得ができ、教師にガッツポーズをしたのだろう。</p> <p>◇互いに伝えたり聞いたりできたこと、折り合いを付けられたことを具体的な言葉で認めた。</p>

<p><事例3> 幼児の姿 ー友達の話をお聞き「おはなしタイム」ー</p>	<p>教師の援助（◎場の設定 ◇幼児同士をつなぐ援助 [-----]教師の見取り）</p>
<p>○教師が楽しかった遊びなどを学級全体に尋ねると、ほとんどの幼児が挙手をした。D児がマイクを持つと、他の幼児はすぐに静かになった（図3）。</p> <p>D児：「探険ごっこに使う望遠鏡を作ったのが楽しかったです」 教師：「長い望遠鏡を作っていたんだよね。見てた人いるかな」 他児：「知ってる。見てた」 教師：「知らない」 教師：「見ていない人もいるから、どういふ物か気になるね」</p> <p>○どの幼児も勝手気ままに思いを言う中、H児が挙手をする。 教師：「Hちゃんが手を挙げたよ。言いたいことがあるみたい」 他児：一斉に静かになる。 H児：「作った物を見てみたい」 ○D児が望遠鏡を持ってくると「見たい」と大騒ぎになるが、H児が「順番にしよう」と言い、どの幼児もすぐに受け入れた。 F児：「どうやって細くしたの？」 D児：「最初にはさみで切って、丸めたんだよ」 ○どの幼児も、友達が質問したり、答えたりする間、興味を持って聞いていた。 教師：「D君の作った物、すごかったね。D君も、みんなに見てもらえてよかったね。またお話聞かせてね」</p>	<p>◎楽しかった遊びを話したり、友達の話の聞いたりできるように、インタビューの時間を設定し、マイクや幼児が作った物などを用意しておく。友達の話に興味を持って聞けるように、座席を円形にする。</p> <p>自分の思いを話したい意欲が高まっているが、マイクを持つことでD児が話することに気付き、相手の話を聞こうとしているのだろう。</p> <p>◇D児の言葉を繰り返すことで、聞いてもらったことが実感できるようにする。また、幼児に問い掛けたり、それぞれの幼児のつぶやきを拾って他の幼児に伝えたりすることで友達の思いに気付くきっかけを作る。</p> <p>静かになるのは、誰かが話すことに気付くだけではなく、どんな話をするのか興味を持ったということだろう。</p> <p>◇作った物を見せたり説明したりできたこと、友達の話や作った物に興味を持って聞けたことなどを認め、「話すこと」「聞くこと」に楽しさや満足感を感じられるようにする。</p>



図3 友だちの話をお聞き場面

(3) 事後の活動

① 環境の構成と教師の援助の工夫

幼児が自分の要求を相手に分かるように伝えられるようになってきたことから、探険ごっこに必要な物を作るための製作材料は、十分な量、種類を用意した。また、楽しかったことや作った物などを友達と話題にするきっかけとなるように、遊びの写真を掲示した。さらに、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりしながら遊びを楽しめるように、思いを伝え合う場を作り、教師が言葉を補足したり、状況に応じて見守ったりするなど、幼児同士をつなぐ援助や友達の良いところや得意なことに気付く援助を繰り返した。

② 幼児の姿

男児のグループの中で、船や看板も作ろうということになり、大きさや形、使う材料、色など、自分の思いを伝えるだけでなく、「こういうのはどう？」と友達の思いを聞きながら作っていた。また、作品展の共同製作や発表会でも「エルマーのぼうけんみたいになりたい」というアイデアが出され、探険ごっこを他の活動にも取り入れようと友達と相談している姿が続いていた。

5 考察

材料の種類や量を意図的に少なくしたことは、友達と一緒に遊ぶきっかけとなり、必要性を感じて友達や教師に思いを伝えることにつながった。

遊びのイメージが共有できなかったり、思いが食い違っているような場面において、思いを伝え合う機会を作り「自分はどう思うか」など幼児へ問い掛けたり、幼児の思いを言葉を補足しながら相手に伝えたり、友達の存在や思いに気付くような言葉掛けをしたりしたことは、友達に分かるように話したり、友達の話を聞いたりすることにつながった。さらに、幼児の実態に合わせて、意図的に見守ったことで、自分から友達の思いを聞こうとしたり、折り合いを付けたりする姿になったと考える。

インタビューの場面では、座席を円形にしたり、マイクや幼児が作った物を用意したりしたことで、友達が話することに気付いて、話す友達を見たり、友達の話を興味を持って聞いたりすることができた。また、話の内容を繰り返したり、問い掛けたり、幼児のつぶやきを拾って他の幼児に伝えたりしたことで、楽しかったことを学級全体で共有することにもつながった。